
**
** ◇◆Systemwalker テンプレートインストール説明書(readme)◆◇ **
** ・ イベント監視テンプレート **
** ・ プロセス監視テンプレート **
** ・ メッセージ説明テンプレート **
** ・ ソフトウェア辞書テンプレート **
**

■ 商標について

Microsoft、Windows、Windows NT、Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

UNIX は、X/Open カンパニーリミテッドが独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Systemwalker は、富士通株式会社の登録商標です。

Oracle Solaris は Solaris , Solaris Operating System , Solaris OS と記載することがあります。

Oracle と Java は、Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Red Hat、RPM および Red Hat をベースとしたすべての商標とロゴは、Red Hat, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

その他、本書に記載されている社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

本文中の記載内容は予告なしに変更される場合があります。

また、Systemwalker Centric Manager のエディションで、Standard Edition を“SE”、Enterprise Edition を“EE”、Global Enterprise Edition を“GEE”と略しています。

Copyright FUJITSU LIMITED 1995-2020

■ 本書の構成

1. Systemwalker テンプレートの使用条件
 2. Systemwalker テンプレートの機能概要
 3. Systemwalker テンプレートのフォルダ構成
 4. Systemwalker テンプレートの適用条件
 5. Systemwalker テンプレートのインストール方法
 6. Systemwalker テンプレートの適用前の作業
 7. Systemwalker テンプレートの適用方法 (GUI)
 8. Systemwalker テンプレートの適用方法 (コマンド)
 9. Systemwalker テンプレートのユーザ定義の利用方法
 10. 運用上の留意事項
 11. Systemwalker テンプレートの入れ替え方法 (GUI)
 12. Systemwalker テンプレートの入れ替え方法 (コマンド)
 13. Systemwalker テンプレートの削除方法
 14. エラーメッセージ
 15. Systemwalker Centric Manager の障害の回避方法について
-

1. Systemwalker テンプレートの使用条件

本テンプレートのご使用にあたっては、下記のご使用条件をお守りください。

- ・本テンプレートの再配布はできません。
- ・本テンプレートに関するいかなる著作権表記も変更できません。
- ・本テンプレートの適用により損害が発生した場合、弊社は損害賠償等の責任を負いません。

2. Systemwalker テンプレートの機能概要

Systemwalker テンプレートは、以下の4種類を提供しています。

- (1) イベント監視テンプレート
イベント監視(イベント監視の条件定義)のポリシーを設定します。
- (2) プロセス監視テンプレート
プロセス監視(アプリケーションの監視)のポリシーを設定します。
- (3) メッセージ説明テンプレート
発生したイベントのメッセージ説明を表示し、異常メッセージを出力している製品名・原因、および対処方法を確認することができます。
- (4) ソフトウェア辞書テンプレート
インベントリ表示で、Solaris/Linux にインストールされているパッケージ情報を元に、製品名とバージョンを表示することができます。

3. Systemwalker テンプレートのフォルダ構成

Systemwalker テンプレート(※) を解凍すると、systemwalker_template フォルダ配下に、下記のファイル/フォルダが展開されます。

※Windows 版のファイル名 : systemwalker_template_yyyymmdd.zip
Solaris/Linux 版のファイル名 : systemwalker_template_yyyymmdd.tar.gz
「yyymmdd」は、本テンプレートの公開日付です

```
[systemwalker_template]
|
+--[readme]                readme 格納フォルダ
|
+--[_tools]                script ツール格納フォルダ
|
+--[_script]              登録用 Systemwalker スクリプト格納フォルダ
|
+--[template]
| |
| | +--[apl]              プロセス監視テンプレートフォルダ
| | |
| | | +--[_document]     監視対象プロセス説明書
| | | |                  (デザインシート)格納フォルダ
| | | |
| | | |
```

		+--[監視対象製品名]	アプリケーション情報ファイル (P_Mpapagt_aplinfo.csv)格納フォルダ
		+--[bin]	コマンド格納フォルダ
		+--[composit]	ソフトウェア辞書テンプレートフォルダ
		+--[event]	イベント監視テンプレートフォルダ
		+--[_document]	フィルタリング定義説明書 (HTML形式)格納フォルダ
		+--[監視対象製品名]	イベント監視条件のCSVファイル格納フォルダ
		+--[msg]	メッセージ説明テンプレートフォルダ
		+--[監視対象製品名]	メッセージ説明ファイル格納フォルダ
		+--[uninstall]	アンインストーラ格納フォルダ

4. Systemwalker テンプレートの適用条件

(1) 本テンプレートの対象バージョン・レベル

全てのテンプレートにおいて、V15.1.0以降のマイクロアップを保証します。

【イベント監視テンプレート(GUIによる適用の場合)】

- ・ Windows 版 (日本語版)
Systemwalker Centric Manager SE/EE V13.1.0~V15.3
- ・ Solaris 版 (日本語版)
Systemwalker Centric Manager SE/EE/GEE V13.1.0~V15.1
- ・ Linux 版 (日本語版)
Systemwalker Centric Manager SE/EE V13.1.0~V15.3
Systemwalker Centric Manager GEE V13.1.0~V15.2

【イベント監視テンプレート(コマンドによる適用の場合)】

- ・ Windows 版 (日本語版)
Systemwalker Centric Manager SE/EE V10.0L10~V15.3
- ・ Solaris 版 (日本語版)
Systemwalker Centric Manager SE/EE/GEE 10.0~V15.1
- ・ Linux 版 (日本語版)
Systemwalker Centric Manager SE/EE V10.0L10~V15.3
Systemwalker Centric Manager GEE V10.0L10~V15.2

【プロセス監視テンプレート(GUIによる適用の場合)】

- ・ Windows 版 (日本語版)
Systemwalker Centric Manager SE/EE V13.1.0~V15.3
- ・ Solaris 版 (日本語版)
Systemwalker Centric Manager SE/EE/GEE V13.1.0~V15.1
- ・ Linux 版 (日本語版)
Systemwalker Centric Manager SE/EE V13.1.0~V15.3
Systemwalker Centric Manager GEE V13.1.0~V15.2

【プロセス監視テンプレート(コマンドによる適用の場合)】

- ・ Windows 版 (日本語版)
Systemwalker Centric Manager SE/EE V12.0L10~V15.3
- ・ Solaris 版 (日本語版)
Systemwalker Centric Manager SE/EE/GEE 12.0~V15.1
- ・ Linux 版 (日本語版)
Systemwalker Centric Manager SE/EE V12.0L10~V15.3
Systemwalker Centric Manager GEE V12.0L10~V15.2

【メッセージ説明テンプレート】

- ・ Windows 版 (日本語版)
Systemwalker Centric Manager SE/EE V10.0L10~V15.3
- ・ Solaris 版 (日本語版)
Systemwalker Centric Manager SE/EE/GEE V11.0~V15.1
- ・ Linux 版 (日本語版)
Systemwalker Centric Manager SE/EE V11.0L10~V15.3
Systemwalker Centric Manager GEE V11.0L10~V15.2

【ソフトウェア辞書テンプレート】

- ・ Windows 版 (日本語版)
Systemwalker Centric Manager SE/EE V13.0.0~V15.3
- ・ Solaris 版 (日本語版)
Systemwalker Centric Manager SE/EE/GEE V13.0.0~V15.1
- ・ Linux 版 (日本語版)
Systemwalker Centric Manager SE/EE V13.0.0~V15.3
Systemwalker Centric Manager GEE V13.0.0~V15.2

(2) Systemwalker テンプレートの容量・インストール先について

Systemwalker テンプレートのダウンロードしたファイルは圧縮データとなっています。インストール前に解凍が必要です。必要なディスク容量は以下のとおりです。

インストール時に必要な作業用ディスク容量：

Windows 版の場合	150MB
Solaris/Linux 版の場合	200MB

インストール先の必要ディスク容量：

Windows 版の場合	Systemwalker インストールディレクトリ	150MB
Solaris/Linux 版の場合	/opt	200MB

Systemwalker テンプレートは、以下のディレクトリにインストールされます。

[Windows 版運用管理サーバの場合]

Systemwalker インストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥template

[Solaris/Linux 版運用管理サーバの場合]

/opt/systemwalker/template

(3) 本テンプレートと監視対象製品のバージョン・レベルの相違について

本テンプレートでサポートしている監視対象製品のバージョン・レベルよりも監視対象サーバにインストールされている監視対象製品のバージョン・レベルが新しい場合、新しいバージョン・レベルで追加・変更されたメッセージは本テンプレートで正しく監視できません。対応製品のバージョンを確認してください。各テンプレートの対応製品一覧および更新履歴は、readme 格納フォルダ配下に格納しています。

- ・ イベント監視テンプレート ----- readme2_filter.pdf
- ・ プロセス監視テンプレート ----- readme2_apl.pdf
- ・ メッセージ説明テンプレート ----- readme2_msg.pdf
- ・ ソフトウェア辞書テンプレート --- readme2_proddic.pdf

(4) Systemwalker Centric Manager の緊急修正について

以下の障害を回避するために、Systemwalker Centric Manager の緊急修正を適用してください。

修正適用時は最新版の修正を適用してください。

- PG52062

「ポリシーの簡易設定」を使用した場合に、以下のいずれかの現象が発生します。

- ・ 同じ定義（条件）が複数設定されます。かつ、設定されない定義があります。
- ・ 最大定義数エラーで異常終了します。
「テンプレートの読み込みに失敗しました。最大定義行数を超えています。
定義行数：」

本障害は Systemwalker Centric manager V13.1.0 を使用し、かつ、GUI による適用を行う場合に発生します。
Systemwalker Centric Manager V13.2.0 または、コマンドによる適用を行う場合には発生しません。

- ・ Windows32 版 Systemwalker Centric Manager SE/EE V13.1.0
修正番号：T000219WP-01 以降
- ・ Solaris 版 Systemwalker Centric Manager SE/EE/GEE V13.1.0
修正番号：T000220SP-01 以降
- ・ Linux32 版 Systemwalker Centric Manager SE/EE V13.1.0
修正番号：T000221LP-01 以降
- ・ Linux64-IPF 版 Systemwalker Centric Manager EE V13.1.0
修正番号：T000222QP-01 以降

- PG58027

Systemwalker テンプレートの適用時に、Windows 2003 Server のノードを指定してポリシーの登録 (poin1 コマンドの実行) をすると異常終了することがあります。(ポリシーの登録ができない場合があります)

本障害は Systemwalker Centric Manager V13. 1. 0/V13. 2. 0 を使用し、かつ、コマンドによる適用を行う場合に発生します。GUI による適用を行う場合には発生しません。

- ・ Windows32 版 Systemwalker Centric Manager SE/EE V13. 1. 0
修正番号 : T000219WP-03 以降
- ・ Windows32 版 Systemwalker Centric Manager SE/EE V13. 2. 0
修正番号 : T000887WP-01 以降
- ・ Linux32 版 Systemwalker Centric Manager SE/EE V13. 2. 0
修正番号 : T001908LP-02 以降、T002389LP-01 以降
- ・ Linux64-IPF 版 Systemwalker Centric Manager SE/EE V13. 2. 0
修正番号 : T002519QP-01 以降、T002520QP-01 以降

- ・ Solaris 版については、2020/9/1 現在で対応する緊急修正がありませんので、「15. Systemwalker Centric Manager の障害の回避方法について」を参照してください。

- PG73879

Windows Server 2008 の Hyper-V により出力されるイベントログが監視できません。

本障害は Systemwalker Centric Manager V13. 3. 0/V13. 3. 1 を使用し、かつ、Hyper-V の出力するイベントログの監視を行う場合に発生します。Systemwalker Centric Manager V13. 4. 0 以降 または、Hyper-V の出力するイベントログの監視を行わない場合には発生しません。

- ・ Windows32 版 Systemwalker Centric Manager SE/EE V13. 3. 0/V13. 3. 1
修正番号 : T001846WP-04 以降

- PG75817, PG76523

インストールレス型エージェント(デプロイ方式)についての不具合を修正しています。

本障害は Systemwalker Centric Manager V13. 4. 0/V13. 4. 0A を使用し、かつ、インストールレス型エージェント(デプロイ方式)を用いてイベント監視を行う場合に発生します。インストール型エージェント または、インストールレス型エージェント(非デプロイ方式)を用いてイベント監視を行う場合には発生しません。

- ・ Windows32 版 Systemwalker Centric Manager SE/EE V13.4.0
修正番号 : T004557WP-01 以降,
 - ・ Windows64-EM64T 版 Systemwalker Centric Manager SE/EE V13.4.0/V13.4.0A
修正番号 : T004563XP-01 以降
 - ・ Windows64-IPF 版 Systemwalker Centric Manager SE/EE V13.4.0
修正番号 : T004562IP-01 以降
 - ・ Solaris 版 Systemwalker Centric Manager SE/EE/GEE V13.4.0
修正番号 : T004558SP-01 以降
 - ・ Linux32 版 Systemwalker Centric Manager SE/EE V13.4.0/V13.4.0A
修正番号 : T004559LP-01 以降
 - ・ Linux64-EM64T 版 Systemwalker Centric Manager SE/EE V13.4.0/V13.4.0A
修正番号 : T004560LP-01 以降
 - ・ Linux64-IPF 版 Systemwalker Centric Manager SE/EE/GEE V13.4.0
修正番号 : T004561QP-01 以降
- PG64095, PG64097, PG64098, PG65234, PG64099
プロセス監視テンプレートのポリシーの動作についての不具合を修正しています。

- ・ Windows32 版 Systemwalker Centric Manager SE/EE V13.3.0
修正番号 : T001837WP-05 以降
- ・ Windows64-IPF 版 Systemwalker Centric Manager SE/EE V13.3.0
修正番号 : T001841IP-03 以降
- ・ Solaris 版 Systemwalker Centric Manager SE/EE/GEE V13.3.0
修正番号 : T001838SP-03 以降
- ・ Linux32 版 Systemwalker Centric Manager SE/EE V13.3.0
修正番号 : T001839LP-04 以降
- ・ Linux64-IPF 版 Systemwalker Centric Manager SE/EE/GEE V13.3.0
修正番号 : T001840QP-07 以降

(5) 以下の条件にご留意ください。

- ・ Systemwalker Centric Manager V13.1.0 または V13.2.0 の運用管理サーバから Systemwalker Centric Manager V13.0.0 の部門サーバまたは業務サーバへは、GUI によるイベント監視テンプレート、プロセス監視テンプレートの適用はできません。
- ・ Systemwalker Centric Manager V13.3.0 以降の運用管理サーバから Systemwalker Centric Manager V13.0.0 へは、監視ポリシーの管理形式の標準モード/互換モードともに GUI によるプロセス監視テンプレートの適用はできません。
- ・ Systemwalker Centric Manager V13.3.0 以降の運用管理サーバ上で、コマンドによる適用を行う場合、監視ポリシーの管理形式は必ず互換モードで行ってください。

※監視ポリシーの管理形式、標準モード/互換モード、モードの切り替えについては、Systemwalker Centric Manager「使用手引書 監視機能編」を参照してください。

5. Systemwalker テンプレートのインストール方法

Systemwalker テンプレートを Systemwalker 技術情報ホームページよりダウンロードし、運用管理サーバ上で Systemwalker テンプレートのインストールを行います。

[適用前の留意事項]

- ・ Windows ターミナルサービス等を使ってリモートから作業しないでください。
- ・ Systemwalker Centric Manager のデータベースを構築したユーザで、作業を実施してください。
- ・ Systemwalker Centric Manager のサービスが起動されている状態で作業をしてください。
- ・ 運用管理サーバの[サーバ環境設定]画面を閉じてから作業してください。

- ・ クラスタ環境に Systemwalker テンプレートをインストールする場合は、下記について留意願います。
 - Windows の場合は、ローカルコンピュータ上の Administrator ユーザでログオンしてください。
 - 運用系、待機系それぞれに Systemwalker テンプレートをインストールしてください。

- ・ Systemwalker テンプレートのインストールを実施することで、システム内のメッセージ説明テンプレートはすべて削除され、新規にインストールが行われます。そのため、今版で提供されない古いバージョンの製品に対するメッセージ説明テンプレートが利用できなくなる場合があります。

- ・ イベント監視の監視条件をローカル設定で設定している場合、Systemwalker テンプレートのインストール後にポリシー設定を実施することで、ローカル設定はすべて削除されます。
そのため、ローカル設定と Systemwalker テンプレートの監視定義を混在して運用することはできません。

- ・ 以下に示す[環境 1]～[環境 3]から本 Systemwalker テンプレートへバージョンアップした場合、アプリケーション監視のポリシー設定から、当該プロセスの監視定義が削除されます。

[環境 1]

- 1) 以下の範囲の Systemwalker テンプレートをインストールしている。かつ、
 - 2006 年 10 月 30 日公開版 (1.0 版) ~ 2006 年 12 月 01 日公開版 (1.1 版)
- 2) 以下のいずれかのプロセス監視テンプレートを GUI によって適用している場合。
 - Systemwalker Resource Coordinator V12.0 -Manager [nrmstatd] (Solaris)
 - Systemwalker Resource Coordinator V12.0 -Manager [nrmeventd] (Solaris)
 - Systemwalker Resource Coordinator V11.0L10 -Agent [NwaStarter.exe] (Windows)
 - Systemwalker Resource Coordinator V11.0L10 -Agent [BsmScwMon.exe] (Windows)

[環境 2]

- 1) 以下の範囲の Systemwalker テンプレートをインストールしている。かつ、
 - 2006 年 10 月 30 日公開版 (1.0 版) ~ 2009 年 02 月 16 日公開版 (2.3 版)
- 2) 以下のプロセス監視テンプレートを GUI によって適用している場合。
 - Systemwalker Desktop Keeper BE/SE V13.0.0 -Manager [fsw21sj0.exe] (Windows)

[環境 3]

- 1) 以下の範囲の Systemwalker テンプレートをインストールしている。かつ、
 - 2008 年 09 月 16 日公開版 (2.0 版) ~ 2010 年 03 月 31 日公開版 (2.7 版)
- 2) 以下のいずれかのプロセス監視テンプレートを GUI によって適用している場合。
 - ServerView Console V4.20~V4.61 [SVDataProvider.exe] (Windows)
 - ServerView Console V4.20~V4.61 [SVFwdServer] (Linux)
 - ServerView Console V4.20~V4.61 [SVArchiveServer] (Linux)
 - ServerView Console V4.20~V4.61 [ExportServer] (Linux)
 - ServerView Console V4.20~V4.61 [SVServerListService] (Linux)
 - ServerView Console V4.52~V4.61 [SVInventoryServer] (Linux)
 - ServerView Console V4.52~V4.61 [SVBmcService] (Linux)
 - ServerView V4.20~V4.61 [SVDataProvider.exe] (Windows)
 - ServerView V4.20~V4.61 [SVFwdServer] (Linux)
 - ServerView V4.20~V4.61 [SVArchiveServer] (Linux)
 - ServerView V4.20~V4.61 [ExportServer] (Linux)
 - ServerView V4.20~V4.61 [SVServerListService] (Linux)
 - ServerView V4.52~V4.61 [SVInventoryServer] (Linux)
 - ServerView V4.52~V4.61 [SVBmcService] (Linux)

(1) Systemwalker テンプレートのインストール

—Windows 版運用管理サーバの場合

- ① systemwalker_template_yyyymmdd.zip を解凍します。
※ yyyymmdd は、本テンプレートの公開日付です。

- ② コマンドプロンプトより、解凍後に作られたフォルダ
"systemwalker_template"へ移動します。

```
cd systemwalker_template
```

- ③ インストールスクリプトを実行します。
<Systemwalker Centric Manager V13.0.0 以前の場合>

```
install_old_form.bat
```

<Systemwalker Centric Manager V13.1.0 以後の場合>

```
install.bat
```

—Solaris/Linux 版運用管理サーバの場合

①systemwalker_template_yyyymmdd.tar.gz を解凍します。

※yyyymmdd は、本テンプレートの公開日付です。

```
gunzip < systemwalker_template_yyyymmdd.tar.gz | tar xvf -
```

②解凍後に作られたフォルダへ移動します。

```
cd systemwalker_template
```

③インストールスクリプトを実行します。

<Systemwalker Centric Manager V13.0.0 以前の場合>

```
./install_old_form.sh
```

<Systemwalker Centric Manager V13.1.0 以後の場合>

運用管理サーバが EUC 環境の場合、install_euc.sh を実行します。

```
./install_euc.sh
```

運用管理サーバが SJIS 環境の場合、install_sjis.sh を実行します。

```
./install_sjis.sh
```

運用管理サーバが UTF8 環境の場合、install_utf8.sh を実行します。

```
./install_utf8.sh
```

(2) Systemwalker コンソール画面の再起動

Systemwalker テンプレートのインストール中に、Systemwalker コンソール画面が起動されていた場合、インストール結果を反映するために、Systemwalker コンソール画面を再起動してください。

この後、[ポリシーの簡易設定]画面を使った GUI、または、適用コマンドを使用して、監視が必要な製品の監視対象製品のイベント監視テンプレートおよびプロセス監視テンプレートを適用してください。

6. Systemwalker テンプレートの適用前の作業

6. 1 syslog.conf または rsyslog.conf の編集

- (1) 下記の製品を Solaris/Linux で監視するためには、syslogd または rsyslogd のプライオリティ (レベル) が「info」または「notice」のメッセージを監視する必要があります。

Systemwalker Centric Manager の初期設定では、syslogd または rsyslogd のプライオリティ (レベル) が「warning」以上のメッセージを監視対象としていますので、(2)の手順で syslog.conf または rsyslog.conf の編集を行ってください。

[kern.info で出力するメッセージの監視が必要な製品]

- ・ Fibre Channel ドライバ (Solaris 版)
- ・ PRIMECLUSTER GLS (Linux 版)

[kern.notice で出力するメッセージの監視が必要な製品]

- ・ FUJITSU PCI 10/100 Ethernet (Solaris 版)
- ・ FUJITSU PCI Gigabit Ethernet (Solaris 版)
- ・ Fujitsu PCI Quad 10/100 Ethernet (Solaris 版)
- ・ ETERNUS マルチパスドライバ/GR マルチパスドライバ (Solaris 版)
- ・ PRIMECLUSTER GDS/SafeDISK (Solaris 版/Linux 版)
- ・ PRIMECLUSTER GFS/SafeFILE (Solaris 版)
- ・ PRIMECLUSTER GLS/SafeLINK (Solaris 版)
- ・ Solaris 8/Solaris 9/Solaris10/Solaris11

[daemon.info で出力するメッセージの監視が必要な製品]

- ・ Interstage Traffic Director (Solaris 版)
- ・ Interstage Traffic Director (Linux 版)
- ・ Symfoware Server (Linux 版)
- ・ PRIMECLUSTER Clustering Base 4.0A20 まで (Linux 版)
- ・ PRIMECLUSTER Clustering Base 4.0A10 まで (Solaris 版)

[daemon.notice で出力するメッセージの監視が必要な製品]

- ・ Interstage Shunsaku Data Manager (Solaris 版)
- ・ Netcompo FNA-BASE (Solaris 版)
- ・ NetWorker (Solaris 版/Linux 版)
- ・ NetVault (Linux 版)
- ・ Interstage Application Server (Solaris 版)
- ・ PRIMECLUSTER Clustering Base 4.1A20 以降 (Linux 版)
- ・ PRIMECLUSTER Clustering Base 4.1A00 以降 (Solaris 版)
- ・ PRIMECLUSTER GFS (Solaris 版)

[user.info で出力するメッセージの監視が必要な製品]

- ・ Symfoware Server (Solaris 版)

[local0.notice で出力するメッセージの監視が必要な製品]

- ・ PRIMECLUSTER GFS (Linux 版)

[local0.info で出力するメッセージの監視が必要な製品]

- ・ Symfoware Server (Solaris 版) Open インタフェースの場合
- ・ Symfoware Server (Linux 版) Open インタフェースの場合

※ファシリティの「local0」については、Symfoware Server のパラメタファイル「postgresql.conf」の「syslog_facility」の値で決まります。

(2) syslog.conf または rsyslog.conf の編集方法

- ① 監視対象サーバで /etc/syslog.conf または/etc/rsyslog.conf を編集します。
以下の例では、“ kern.notice”、“ daemon.notice” を追加しています。

—Solaris の場合

/etc/syslog.conf を以下のように変更します。

【変更前】

```
*.warning /var/opt/FJSVsagt/fifo/slg
```

【変更後】

```
*.warning;kern.notice;daemon.notice /var/opt/FJSVsagt/fifo/slg
```

※注：パラメタの区切りは、空白ではなくタブを使用してください。

—Red Hat Enterprise Linux 7 以降の場合

/etc/rsyslog.conf を以下のように変更します。

【変更前】

```
*.warning |/var/opt/FJSVsagt/fifo/slg;RSYSLOG_TraditionalFileFormat
```

【変更後】

```
*.warning;kern.notice;daemon.notice  
|/var/opt/FJSVsagt/fifo/slg;RSYSLOG_TraditionalFileFormat
```

※注：パラメタの区切りは、空白ではなくタブを使用してください。

—Red Hat Enterprise Linux 6 の場合

/etc/rsyslog.conf を以下のように変更します。

【変更前】

```
*.warning |/var/opt/FJSVsagt/fifo/slg;FJSVsagtTemplate
```

【変更後】

```
*.warning;kern.notice;daemon.notice  
|/var/opt/FJSVsagt/fifo/slg;FJSVsagtTemplate
```

※注：パラメタの区切りは、空白ではなくタブを使用してください。

—Red Hat Enterprise Linux 5 以前の場合

/etc/syslog.conf を以下のように変更します。

【変更前】

```
*.warning |/var/opt/FJSVsagt/fifo/slg
```

【変更後】

```
*.warning;kern.notice;daemon.notice |/var/opt/FJSVsagt/fifo/slg
```

※注：パラメタの区切りは、空白ではなくタブを使用してください。

② syslogd または rsyslogd に変更を反映します。

—Red Hat Enterprise Linux 7 以降の場合
rsyslogd を再起動してください。

```
systemctl restart rsyslog.service
```

—Red Hat Enterprise Linux 6.3 以降の場合
rsyslogd を再起動してください。

```
service rsyslog restart
```

—Red Hat Enterprise Linux 6.0~6.2 の場合
rsyslogd に対して HUP シグナルを送ります。

```
ps -ef | grep rsyslogd  
kill -HUP <上記で求めたプロセス ID>
```

—Solaris/Red Hat Enterprise Linux 5 以前の場合
syslogd に対して HUP シグナルを送ります。

```
ps -ef | grep syslogd  
kill -HUP <上記で求めたプロセス ID>
```

【注意】 Solaris 10 で Zone を作成している場合
/etc/syslog.conf に変更を加えた Zone の syslogd を Zone 名で特定し、HUP シグナルを送ります。

なお、ログインしている Zone の Zone 名は “/usr/bin/zonename” コマンドで確認できます。

```
ps -Zef | grep syslogd | grep `/usr/bin/zonename`  
kill -HUP <上記で求めたプロセス ID>
```

③ この後の適用作業にて、_common (Solaris 8 以降 syslog メッセージ共通定義) テンプレートを適用してください。

このテンプレートでは、syslogd のプライオリティが「info」または「notice」で出力するメッセージで、監視の必要のないメッセージを抑制します。

7. Systemwalker テンプレートの適用方法 (GUI)

GUIによる適用方法については、以下に示すオンラインマニュアルを参照してください。

- Systemwalker Centric Manager V13.1.0 または V13.2.0 の場合
オンラインマニュアル「Systemwalker Centric Manager クイックガイド」の「監視機能を設定する」を参照してください。
- Systemwalker Centric Manager V13.3.0 以降の場合
 - ・通常モードの場合
オンラインマニュアル「使用手引書 監視機能編」の「設定」の「[監視ポリシー]の設定」の「イベント監視」および「アプリケーション監視」を参照してください。
 - ・互換モードの場合
オンラインマニュアル「使用手引書 監視機能編(互換用)」の「簡単にシステムを構築する(簡易設定モード)」の「運用前に必要な設定」の「Systemwalker テンプレートを使用する」を参照してください。

8. Systemwalker テンプレートの適用方法 (コマンド)

適用作業は運用管理サーバ上で実施します。

本文中の”監視対象ノード”とはイベント監視テンプレートまたは、アプリケーション監視テンプレートを適用するノードまたはフォルダを示します。

[適用前の留意事項]

- ・ Systemwalker Centric Manager V13.3.0 以降の運用管理サーバ上で、コマンドによる適用を行う場合は、監視ポリシーの管理形式は必ず互換モードで行ってください。監視ポリシーの管理形式を標準モードで運用している場合は、GUIによる適用を行ってください。
- ・ Windows ターミナルサービス等を使ってリモートから作業しないでください。
- ・ Administrator ユーザまたは、root で作業を実施してください。
- ・ Systemwalker Centric Manager のサービスが起動されている状態で作業をしてください。
- ・ 運用管理サーバの[サーバ環境設定]画面を閉じてから作業してください。
- ・ 部門管理サーバ・業務サーバへ、コマンドによるイベント監視テンプレートの適用を行う場合は、あらかじめ、運用管理サーバへも同製品のイベント監視テンプレートをコマンドにより適用しておく必要があります。

注) イベント監視テンプレート適用スクリプトは、運用管理サーバ用、部門管理サーバ・業務管理サーバ用ともに、デフォルトでは、_commonのみが適用可能となっています。適用する製品のコメントを外して適用スクリプトを実行してください。

8.1 イベント監視テンプレートの適用方法（運用管理サーバ）

[適用前の留意事項]

- ・「Systemwalker テンプレート対応製品一覧」に製品ごとの留意事項が記載されていますのでご確認ください。
- ・適用する製品のフィルタリング定義説明書(html)を参照し、設定内容を確認してください。

ー運用管理サーバが Windows の場合

- (1) 運用管理サーバに適用する監視対象製品のテンプレートを選択します。
解凍したフォルダ“systemwalker_template”の Setup_mgr.bat をエディタで開き、適用する製品のコメントを外して（行頭の: を削除して処理を有効にする）、保存してください。

※製品の順番は変更しないでください。

- (2) イベント監視テンプレート適用スクリプトを実行します。
 - ・コマンドプロンプトより、解凍したフォルダ“systemwalker_template”へ移動し、Setup_mgr.bat を実行します。

```
Setup_mgr.bat
```

※監視対象製品のテンプレートごとに正常終了した場合、以下のメッセージが表示されます。

「イベント監視の条件定義(XXX:製品名)を追記しました。」

- (3) テンプレートの定義は、「イベント監視の条件定義」の最初の行に追加されます。テンプレート適用前の定義を有効にしたい場合は、その定義をテンプレートが追加した行の前に移動してください

ー運用管理サーバが Solaris/Linux の場合

- (1) 運用管理サーバに適用する監視対象製品のテンプレートを選択します。
解凍したフォルダ“systemwalker_template”の setupmgr_euc.sh、setupmgr_sjis.sh または setupmgr_utf8.sh をエディタで開き、適用する製品のコメントを外して（行頭の# を削除して処理を有効にする）保存してください。

※製品順番は変更しないでください。

- (2) イベント監視テンプレート適用スクリプトを実行します。
 - ・解凍後に作られたフォルダ“systemwalker_template”へ移動し、以下のコマンドを実行します。
 - ー 運用管理サーバが EUC 環境の場合

```
./setupmgr_euc.sh
```

- ー 運用管理サーバが S-JIS 環境の場合

```
./setupmgr_sjis.sh
```

- 運用管理サーバが UTF8 環境の場合

```
./setupmgr_utf8.sh
```

※監視対象製品のテンプレートごとに正常終了した場合、
「XXX aoseadef success」(は製品名)のメッセージが表示されます。最後に
「Setup end.」が表示されれば、すべてのテンプレートの適用処理が正常終了しています。

- (3) テンプレートの定義は、「イベント監視の条件定義」の最初の行に追加されます。テンプレート適用前の定義を有効にしたい場合は、その定義をテンプレートが追加した行の前に移動してください

8.2 イベント監視テンプレートの適用方法 (部門管理サーバ・業務サーバ)

- 運用管理サーバが Windows 版の場合

- (1) 運用管理サーバにて、以下のコマンドを実行します。

```
cd <Systemwalker インストールディレクトリ>%mpwalker%epolicy
```

- (2) 部門管理サーバ、業務サーバへ適用する監視対象製品のテンプレートを選択します。

Setup_agt.bat をエディタで開き、適用する製品のコメントを外して
(行頭の: を削除して処理を有効にする)保存してください。

※製品順番は変更しないでください。

- (3) 運用管理サーバにて、以下のコマンドを実行します。

※監視対象製品のテンプレートごとに正常終了した場合、以下のメッセージが表示されます。

「イベント監視の条件定義(XXX:製品名)を追記しました。」

また、すべての監視対象製品のテンプレートの登録が正常終了した場合、

「監視ポリシーの登録処理が正常終了しました。」

「続いて、Systemwalker コンソールよりポリシーの配付処理を行ってください。」

のメッセージが出力されます。

```
Setup_agt.bat {-f FolderName | -n ノードの表示名}
```

[パラメタの説明]

-f FolderName : 適用対象がフォルダの場合は「-f」と「フォルダの表示名」を指定します。

-n ノードの表示名 : 適用対象がノード単体の場合は「-n」と「ノードの表示名」を指定します。

※Systemwalker コンソールに表示されるフォルダの表示名、ノードの表示名を指定します。(host名ではありませんのでご注意ください。)

[留意事項]

部門管理サーバ・業務サーバの初期導入時など、部門管理サーバ・業務サーバにフィルタ定義のポリシーが設定されていない場合、本テンプレートの適用時に以下のメッセージが表示されますが、とくに問題はありません。本テンプレートは、フィルタ定義の適用処理を続行します。

「既存定義をバックアップできませんでした。処理を続行します。
poout: 指定されたノードにはポリシーは設定されていません。
child process exited abnormally」

- (4) Systemwalker コンソールから、部門管理サーバ、業務サーバへポリシーの配付を行います。

—運用管理サーバが Solaris/Linux 版の場合

- (1) 運用管理サーバにて、以下のコマンドを実行します。

```
cd /var/opt/FJSVswtd/epolicy
```

- (2) 部門管理サーバ、業務サーバへ適用する監視対象製品のテンプレートを選択します。setupagt_euc.sh または setupagt_sjis.sh または setupagt_utf8.sh をエディタで開き、適用する製品のコメントを外して(行頭の# を削除し処理を有効にする)保存してください。
※製品順番は変更しないでください。

- (3) 運用管理サーバにて、以下のコマンドを実行します。

※監視対象製品のテンプレートごとに正常終了した場合、
「XXX aoseadef success」(は製品名)のメッセージが表示されます。最後に「Setup end.」が表示されれば、すべてのテンプレートの適用処理が正常終了しています。

- 運用管理サーバが EUC 環境の場合、setupagt_euc.sh を実行します。

```
./setupagt_euc.sh {-f FolderName | -n ノードの表示名}
```

- 運用管理サーバが S-JIS 環境の場合、setupagt_sjis.sh を実行します。

```
./setupagt_sjis.sh {-f FolderName | -n ノードの表示名}
```

- 運用管理サーバが UTF8 環境の場合、setupagt_utf8.sh を実行します。

```
./setupagt_utf8.sh {-f FolderName | -n ノードの表示名}
```

[パラメタの説明]

-f FolderName : 適用対象がフォルダの場合は「-f」と「フォルダの表示名」を指定します。

-n ノードの表示名 : 適用対象がノード単体の場合は「-n」と「ノードの表示名」を指定します。

※Systemwalker コンソールに表示されるフォルダの表示名、ノードの表示名を指定します。(host 名ではありませんのでご注意ください。)

[留意事項]

部門管理サーバ・業務サーバの初期導入時など、部門管理サーバ・業務サーバにフィルタ定義のポリシーが設定されていない場合、本テンプレートの適用時に以下のメッセージが表示されますが、とくに問題はありません。本テンプレートは、フィルタ定義の適用処理を続行します。

```
「Notice: cannot make backup file. continue setup.  
UX:MpAosfB: ERROR: 0011: 指定されたノードにはポリシーは  
設定されていません。」
```

(4) Systemwalker コンソールから、部門管理サーバ、業務サーバへポリシーの配付を行います。

8.3 プロセス監視テンプレートの適用方法

プロセス監視機能の全体的な設計、および設定手順・注意事項等の詳細については、以下のオンラインマニュアルをご参照ください。

- ・ Systemwalker Centric Manager 「使用手引書 監視機能編」の「アプリケーションを監視する」または「ポリシーの設定と配付」
- ・ Systemwalker Centric Manager 「リファレンスマニュアル」の「P_Mpapagt コマンド」または「アプリケーション情報ファイル」

(1) 運用管理サーバにてアプリケーション情報ファイルの移入コマンド (P_Mpapagt) を実行し、監視対象アプリケーションを登録します。

－運用管理サーバが Windows 版の場合

```
<Systemwalker インストールディレクトリ>%mpwalker.dm%Mpapagt%opt%  
bin%P_Mpapagt.exe -in directory -n node
```

[パラメタの説明]

- in directory : アプリケーション情報ファイル (P_Mpapagt_aplinfo.csv) を格納しているディレクトリを指定します。
- n node : 監視対象アプリケーションがインストールされているノード名を指定します。

－運用管理サーバが Solaris/Linux 版の場合

```
/opt/FJSVsapag/bin/P_Mpapagt -in directory -n node
```

[パラメタの説明]

- in directory : アプリケーション情報ファイル (P_Mpapagt_aplinfo.csv) を格納しているディレクトリを指定します。
- n node : 監視対象アプリケーションがインストールされているノード名を指定します。

(2) 運用管理サーバまたは運用管理クライアントの[Systemwalker コンソール]の[アプリケーション一覧]にて、監視対象アプリケーションが登録されていることを確認します。

8.4 メッセージ説明テンプレートの適用方法

(1) UX:rdb で始まるメッセージについて

UX:rdb で始まるメッセージは Solaris 版 Symfoware Server、および Linux 版 Symfoware Server の製品で出力されます。本テンプレートの初期設定では Solaris 版 Symfoware Server のメッセージ説明が有効になります。Linux 版 Symfoware Server を監視する場合は、監視する場合は、下記に示すメッセージ説明テンプレートフォルダ配下のメッセージ説明フォルダを削除、またはリネームしてください。

- ・ Linux 版 Symfoware Server を監視する場合
 - Solaris 版 Symfoware Server のメッセージ説明テンプレートフォルダ [Symfo_sol]

(2) FJSVrcx で始まるメッセージについて

FJSVrcx で始まるメッセージは Systemwalker Resource Coordinator、Systemwalker Resource Coordinator Virtual server Edition、および ETERNUS SF Storage Cruiser の製品で出力されます。本テンプレートの初期設定では Systemwalker Resource Coordinator Virtual server Edition 版のメッセージ説明が有効になります。Systemwalker Resource Coordinator Virtual server Edition 版以外の製品を監視する場合は、下記に示すメッセージ説明テンプレートフォルダ配下のメッセージ説明フォルダを削除、またはリネームしてください。

- ・ Systemwalker Resource Coordinator を監視する場合
 - Systemwalker Resource Coordinator Virtual server Edition のメッセージ説明テンプレートフォルダ [RC_VE_133]
- ・ ETERNUS SF Storage Cruiser を監視する場合
 - Systemwalker Resource Coordinator Virtual server Edition のメッセージ説明テンプレートフォルダ [RC_VE_133]
 - Systemwalker Resource Coordinator のメッセージ説明テンプレートフォルダ [RCV13]
 - Systemwalker Resource Coordinator のメッセージ説明テンプレートフォルダ [RCnr_sol]

9. Systemwalker テンプレートのユーザ定義の利用方法

ユーザ作成の定義ファイルを登録することで、イベント監視およびプロセス監視のテンプレートとして GUI から監視設定することができます。

ユーザ定義ファイルは、reg_userdef_template コマンドで登録します。

本コマンドは、Systemwalker Centric Manager V13.1.0 以降で利用可能です。

9. 1 イベント監視テンプレートのユーザ定義

9. 1. 1 適用手順

ユーザ定義ファイルを登録し、イベント監視の定義を適用します。

- (1) イベント監視のユーザ定義ファイルを作成します。最大 20 個の定義を登録することができます。また、イベント監視のユーザ定義ファイルについては、オンラインマニュアル「Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル」の、「イベント監視条件の CSV ファイル」を参照してください。
- (2) 運用中の環境よりイベント監視条件の CSV ファイルを出力して利用する場合には、以下の定義を削除してください。
 - ・ テンプレート開始行（ホスト名の特定が、###Systemwalker Template Start###）の定義行を含む以降の定義をすべて削除してください。
- (3) Event Designer を使用してユーザ定義ファイルに文法誤りがないことを確認してください。
- (4) Administrators グループのユーザまたは root ユーザで、reg_userdef_template コマンドを実行し、定義ファイルを登録します。

—Windows 版の場合

```
> (Systemwalker インストールディレクトリ)¥mpwalker.dm¥template¥bin¥  
reg_userdef_template.bat -e num -i file
```

—Solaris/Linux 版の場合

– 運用管理サーバが EUC 環境の場合

```
> sh /opt/systemwalker/template/bin/  
reg_userdef_template_euc.sh -e num -i file
```

– 運用管理サーバが S-JIS 環境の場合

```
> sh /opt/systemwalker/template/bin/  
reg_userdef_template_sjis.sh -e num -i file
```

– 運用管理サーバが UTF8 環境の場合

```
> sh /opt/systemwalker/template/bin/  
reg_userdef_template_utf8.sh -e num -i file
```

[パラメタの説明]

- e : イベント監視の定義の場合に指定します。
- num : ユーザ定義番号(※)を 01~20 の中から一つ指定します。
- i : 定義を登録する場合に指定します。
- file : 登録するユーザ定義ファイル名をフルパスまたは相対パスで指定します。
ファイル名は先頭文字が英数字となるように指定してください。

※) ユーザ定義番号は監視定義一覧の User20、User19、…User01 の番号です。
番号が大きいものを上位に設定します。(上位の定義が先に評価されます)
また、ユーザ定義は、他の製品のテンプレートよりも上位に設定します。

(5) 正常に終了すると、以下のメッセージが出力されます。

```
| >reg_userdef_template success.
```

(6) GUI より適用します。

GUI による適用方法の詳細手順については、「Systemwalker Centric Manager
使用手引書 監視機能編 4.3 イベント監視」を参照してください。

9. 1. 2 取り出し手順

登録済みのユーザ定義ファイルを修正する場合や、バックアップする場合に
ユーザ定義ファイルを取り出します。

(1) Administrators グループのユーザまたは root ユーザで、reg_userdef_template
コマンドを実行し、ユーザ定義ファイルを取り出します。

—Windows 版の場合

```
| > (Systemwalker インストールディレクトリ)¥mpwalker.dm¥template¥bin¥  
| reg_userdef_template.bat -e num -o file
```

—Solaris/Linux 版の場合

– 運用管理サーバが EUC 環境の場合

```
| > sh /opt/systemwalker/template/bin/  
| reg_userdef_template_euc.sh -e num -o file
```

– 運用管理サーバが S-JIS 環境の場合

```
| > sh /opt/systemwalker/template/bin/  
| reg_userdef_template_sjis.sh -e num -o file
```

– 運用管理サーバが UTF8 環境の場合

```
| > sh /opt/systemwalker/template/bin/  
| reg_userdef_template_utf8.sh -e num -o file
```

[パラメタの説明]

- e : イベント監視の定義の場合に指定します。
- num : ユーザ定義番号(※)を 01~20 の中から一つ指定します。
- o : 定義を取り出す場合に指定します。
- file : 出力するユーザ定義ファイル名をフルパスまたは相対パスで指定します。
ファイル名は先頭文字が英数字となるように指定してください。

※) ユーザ定義番号は監視定義一覧の User20、User19、…User01 の番号です。

(2) 正常に終了すると、以下のメッセージが出力されます。

```
>reg_userdef_template success.
```

9. 1. 3 削除手順

登録した定義ファイルを削除し、初期状態に戻します。
削除後は元に戻せませんので、必要に応じて先に取り出しを行ってください。

(1) 削除するユーザ定義を監視対象製品からはずします。

1) [ポリシーの簡易設定]画面、または、[イベント監視[監視条件]]画面の監視対象製品からチェックをはずし[OK]ボタンをクリックします。

2) ポリシーを配付します。

(2) Administrators グループのユーザまたは root ユーザで、reg_userdef_template コマンドを実行し、ユーザ定義ファイルを削除します。

注) 削除後は元に戻せませんので、必要に応じて先に取り出しを行ってください。

—Windows 版の場合

```
>(Systemwalker インストールディレクトリ)¥mpwalker.dm¥template¥bin¥  
reg_userdef_template.bat -e num -d
```

—Solaris/Linux 版の場合

- 運用管理サーバが EUC 環境の場合

```
> sh /opt/systemwalker/template/bin/  
reg_userdef_template_euc.sh -e num -d
```

- 運用管理サーバが S-JIS 環境の場合

```
> sh /opt/systemwalker/template/bin/  
reg_userdef_template_sjis.sh -e num -d
```

- 運用管理サーバが UTF8 環境の場合

```
| > sh /opt/systemwalker/template/bin/  
| reg_userdef_template_utf8.sh -e num -d
```

[パラメタの説明]

- e : イベント監視の定義の場合に指定します。
- num : ユーザ定義番号(※)を 01~20 の中から一つ指定します。
- d : 定義を削除する場合に指定します。

※) ユーザ定義番号は監視定義一覧の User20、User19、…User01 の番号です。

- (3) 正常に終了すると、以下のメッセージが出力されます。

```
| > reg_userdef_template success.
```

9. 2 プロセス監視テンプレートのユーザ定義

9. 2. 1 適用手順

ユーザ定義ファイルを登録し、プロセス監視の定義を適用します。

- (1) プロセス監視のユーザ定義ファイルを作成します。最大 20 個の定義を登録することができます。また、プロセス監視のユーザ定義ファイルについては、オンラインマニュアル「Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル」の、「アプリケーション情報ファイル」を参照してください。
- (2) Administrators グループのユーザまたは root ユーザで、reg_userdef_template コマンドを実行し、定義ファイルを登録します。

-Windows 版の場合

```
| > (Systemwalker インストールディレクトリ)¥mpwalker.dm¥template¥bin¥  
| reg_userdef_template.bat -a num -i file
```

-Solaris/Linux 版の場合

- 運用管理サーバが EUC 環境の場合

```
| > sh /opt/systemwalker/template/bin/  
| reg_userdef_template_euc.sh -a num -i file
```

- 運用管理サーバが S-JIS 環境の場合

```
| > sh /opt/systemwalker/template/bin/  
| reg_userdef_template_sjis.sh -a num -i file
```

- 運用管理サーバが UTF8 環境の場合

```
| > sh /opt/systemwalker/template/bin/  
| reg_userdef_template_utf8.sh -a num -i file
```

[パラメタの説明]

- a : プロセス監視の定義の場合に指定します。
- num : ユーザ定義番号(※)を 01~20 の中から一つ指定します。
- i : 定義を登録する場合に指定します。
- file : 設定するユーザ定義ファイル名をフルパスまたは相対パスで指定します。
ファイル名は先頭文字が英数字となるように指定してください。

※) ユーザ定義番号は監視定義一覧の User20、User19、…User01 の番号です。

(3) 正常終了しますと、以下のメッセージが出力されます。

```
| >reg_userdef_template success.
```

(4) 作成した定義を GUI により適用します。

GUI による適用方法の詳細手順については、「Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編 4.4 アプリケーション監視」を参照してください。

9. 2. 2 取り出し手順

登録済みのユーザ定義ファイルを修正する場合や、バックアップする場合にユーザ定義ファイルを取り出します。

(1) Administrators グループのユーザまたは root ユーザで、reg_userdef_template コマンドを実行し、定義ファイルを取り出します。

—Windows 版の場合

```
| > (Systemwalker インストールディレクトリ)¥mpwalker.dm¥template¥bin¥  
| reg_userdef_template.bat -a num -o file
```

—Solaris/Linux 版の場合

— 運用管理サーバが EUC 環境の場合

```
| > sh /opt/systemwalker/template/bin/  
| reg_userdef_template_euc.sh -a num -o file
```

— 運用管理サーバが S-JIS 環境の場合

```
| > sh /opt/systemwalker/template/bin/  
| reg_userdef_template_sjis.sh -a num -o file
```

— 運用管理サーバが UTF8 環境の場合

```
| > sh /opt/systemwalker/template/bin/  
| reg_userdef_template_utf8.sh -a num -o file
```


[パラメタの説明]

- a : プロセス監視の定義の場合に指定します。
- num : ユーザ定義番号(※)を 01~20 の中から一つ指定します。
- o : 定義を取り出す場合に指定します。
- file : 出力するユーザ定義ファイル名をフルパスまたは相対パスで指定します。
ファイル名は先頭文字が英数字となるように指定してください。

※) ユーザ定義番号は監視定義一覧の User20、User19、…User01 の番号です。

(2) 正常終了しますと、以下のメッセージが出力されます。

```
>reg_userdef_template success.
```

9. 2. 3 削除手順

登録した定義ファイルを削除し、初期状態に戻します。
削除後は元に戻せませんので、必要に応じて先に取り出しを行ってください。

(1) 削除するユーザ定義を監視対象製品からはずします。

1) [ポリシーの簡易設定]画面、または、[アプリケーション監視[監視条件]]
画面の監視対象製品からチェックをはずし[OK]ボタンをクリックします。

2) ポリシーを配付します。

(2) Administrators グループのユーザまたは root ユーザで、reg_userdef_template
コマンドを実行し、ユーザ定義ファイルを削除します。

注) 削除後は元に戻せませんので、必要に応じて先に取り出しを行ってください。

—Windows 版の場合

```
>(Systemwalker インストールディレクトリ)¥mpwalker.dm¥template¥bin¥  
reg_userdef_template.bat -a num -d
```

—Solaris/Linux 版の場合

- 運用管理サーバが EUC 環境の場合

```
> sh /opt/systemwalker/template/bin/  
reg_userdef_template_euc.sh -a num -d
```

- 運用管理サーバが S-JIS 環境の場合

```
> sh /opt/systemwalker/template/bin/  
reg_userdef_template_sjis.sh -a num -d
```

- 運用管理サーバが UTF8 環境の場合

```
| > sh /opt/systemwalker/template/bin/  
| reg_userdef_template_utf8.sh -a num -d
```

[パラメタの説明]

- a : プロセス監視の定義の場合に指定します。
- num : ユーザ定義番号(※)を 01~20 の中から一つ指定します。
- d : 定義を削除する場合に指定します。

※) ユーザ定義番号は監視定義一覧の User20、User19、…User01 の番号です。

(3) 正常終了しますと、以下のメッセージが出力されます。

```
| >reg_userdef_template success.
```

10. 運用上の留意事項

10.1 プロセス監視テンプレートの留意事項

複数製品をプロセス監視の対象とするときに、それぞれの監視対象製品のバージョンが同一でかつ、監視対象のプロセス名が同一の場合、先に登録した製品の中に表示します。適用した製品を確認する場合には、ご注意ください。

例)

ETERNUS Advanced Copy Manager (Solaris/Linux)_java V13.0~V13.1 を適用後
ETERNUS SF StorageCruiser Agent (Solaris)_java V13.0~V13.1 を適用すると
ETERNUS Advanced Copy Manager (Solaris/Linux)_java V13.0~V13.1 の中に、
アプリケーションが表示されます。

10.2 メッセージ説明テンプレートの留意事項

- (1) 本テンプレートで提供するメッセージ説明は、各製品マニュアルに記載されている内容を使用しています。メッセージ説明の内容に関しては、各製品開発元へご確認ください。
- (2) メッセージ説明文が長くなる(16KB 以上)場合、下記の表示を行い、説明を途中で打ち切ります。
全ての説明を見たい場合は、該当する製品のマニュアルをご参照ください。

```
*****  
★★★ Systemwalker テンプレートからのお知らせ ★★★  
説明用のファイルが規定より大きいので以後省略します。  
本メッセージの全ての説明を参照したい場合は、該当する  
製品のマニュアルをご参照ください。  
*****
```

- (3) [システム監視設定]-[サーバ環境定義]の[メッセージ説明]、およびヘルプデスクのノウハウ票が登録されている場合、これらの定義が先に検索対象となります。

- (4) Systemwalker コンソールに複数行で出力されるメッセージに対する「メッセージ説明」を表示させる場合、先頭行のメッセージを選択してください。

10.3 イベント監視テンプレートの留意事項

- (1) GUIでテンプレートを適用した場合、適用先の「イベント監視の条件定義」では、###Systemwalker Template Start### のメッセージから ###Systemwalker Template End###のメッセージの間に適用した定義が上書きされ、個々の定義を変更することはできません。
コマンドでテンプレートを適用した場合は、###Systemwalker Template Start### のメッセージの上に追記される形で適用され、個々の定義を変更することが可能です。
- (2) コマンドでテンプレートを適用してもポリシーの簡易設定画面へは反映されません。(コマンドで適用した製品にチェックは付きません。)
- (3) 旧形式のイベント監視テンプレートについて
GUIコマンドどちらの場合も、適用製品の選択時に同一製品名で“(旧形式)”と書かれたものがあります。
- 被監視サーバの Systemwalker Centric Manager のバージョンに関係なく、すべてのバージョンで適用することができます。
 - 本テンプレートを適用する場合は、配付先の Systemwalker Centric Manager にスクリプトの登録が必要となります。下記(5)を参照してください。
 - 被監視サーバの Systemwalker Centric Manager のバージョンが V13.1.0 以後の場合は、スクリプト登録の作業が必要なく、より簡単に適用することができます。“(旧形式)”ではない同一名の製品を使用することをお勧めします。
 - “(旧形式)”が存在しない製品は、共通で使用することができるため、すべての Systemwalker Centric Manager のバージョンで適用することができます。
 - GUIを使用してテンプレートを適用する場合、Systemwalker Centric Manager V13.1.0~V13.2.0、V13.3.0以降(互換モード)から V13.0.0 以前のバージョンの部門サーバや業務サーバへ適用することはできません。
(Systemwalker Centric Manager の仕様)
この場合はコマンドでテンプレートを適用してください。
 - 旧形式の定義を使用する場合は、_common(旧形式)の定義を必ず適用してください。
 - ・_common(旧形式)より下位のフィルタリング定義は、無効になります。したがって、製品別テンプレートより_common(旧形式)が下位に設定されるよう、はじめに適用してください。
 - ・個別にフィルタリング定義を設定している場合は、_common(旧形式)が下位に定義されるよう修正してください。
 - ・Systemwalker for Oracleを導入しているサーバでは、Systemwalker for Oracle のインストール時に、Systemwalker for Oracle のフィルタリング定義が設定されます。したがって、Systemwalker for Oracle のフィルタリング定義より_common(旧形式)が下位に定義されるよう修正してください。
 - 上記に記したように、_common(旧形式)以下の定義は無効になるため、旧形式を使用する場合は、コマンドによる適用と GUI による適用を混在することはできません。(GUIによる適用される定義はすべてコマンドによって適用される定義より下位に設定されるため。)

(4) 設定可能な定義数について

イベント監視条件定義の定義数の最大値はそれぞれ以下となります。

最大定義数に注意して監視対象製品を選択してください。

- Systemwalker Centric Manager V13.0.0 以前 2048 個

- Systemwalker Centric Manager V13.1.0 以後 5000 個

運用管理サーバおよび監視対象ノードに Systemwalker テンプレートを適用中に

フィルタリング定義が最大数に達した場合、以下のエラーメッセージが出力さ

れ、Systemwalker テンプレートの適用が失敗します。

[メッセージ例]

aoseadef: ERROR: The number which was able to be defined was exceeded.

(5) スクリプトの登録と適用

旧形式のイベント監視テンプレートを適用した場合、適用先でスクリプトファ

イルの登録と適用が必要となります。旧形式のイベント監視テンプレートを適

用しない場合は不要です。

・ 運用管理サーバへの登録と適用

添付(_script フォルダ内)の Systemwalker スクリプト(scFacilityLevelChk1.swt

scFacilityLevelChk2.swt)を運用管理サーバに登録し適用をします。

- 1) スクリプトファイルを下記のスクリプトの共通管理ディレクトリにコピー
します。

—Windows の場合

```
(Systemwalker インストールディレクトリ)
|                                     ¥mpwalker.dm¥mpsc¥script¥common
```

—UNIX の場合

```
| /var/opt/FJSVssc/script/common
```

- 2) スクリプト管理コマンド(mpscctl)でスクリプトを登録します。

—Windows の場合

```
(Systemwalker インストールディレクトリ)
| ¥mpwalker.dm¥mpsc¥bin¥mpscctl -a scFacilityLevelChk1.swt
| (Systemwalker インストールディレクトリ)
| ¥mpwalker.dm¥mpsc¥bin¥mpscctl -a scFacilityLevelChk2.swt
```

—UNIX の場合

```
| /opt/FJSVssc/bin/mpscctl -a scFacilityLevelChk1.swt
| /opt/FJSVssc/bin/mpscctl -a scFacilityLevelChk2.swt
```

- 3) スクリプト管理コマンド (mpscsctl) で登録したスクリプトの適用をします。

—Windows の場合

```
(Systemwalker インストールディレクトリ)
¥mpwalker.dm¥mpsc¥bin¥mpscsctl -r
```

—UNIX の場合

```
/opt/FJSVssc/bin/mpscsctl -r
```

・ 部門管理サーバ・業務サーバへの登録と適用

添付 (_script フォルダ内) の Systemwalker スクリプト (scFacilityLevelChk1.swt scFacilityLevelChk2.swt) を運用管理サーバに登録後、運用管理サーバから対象マシンへ配付します。

- 1) スクリプトファイルを下記のディレクトリにコピーします。

—Systemwalker Centric ManagerV13.3.1 以前の場合、または、Systemwalker Centric ManagerV13.4.0 以降で、監視ポリシーが互換モードの場合は、共通管理ディレクトリにコピーします。

—Windows の場合

```
(Systemwalker インストールディレクトリ)
¥mpwalker.dm¥mpsc¥script¥common
```

—UNIX の場合

```
/var/opt/FJSVssc/script/common
```

—Systemwalker Centric ManagerV13.4.0 以降で、監視ポリシーが通常モードの場合は、スクリプト登録ディレクトリにコピーします。

—Windows の場合

```
(Systemwalker インストールディレクトリ)
¥mpwalker.dm¥mpsc¥script¥scpol
```

—UNIX の場合

```
/var/opt/FJSVssc/script/scpol
```

2) スクリプト管理コマンド(mpscctl)でスクリプトを登録します。

–Systemwalker Centric ManagerV13. 3. 1 以前の場合、または、
Systemwalker Centric ManagerV13. 4. 0 以降で、監視ポリシーが互換
モードの場合

–Windows の場合

```
(Systemwalker インストールディレクトリ)  
¥mpwalker.dm¥mpsc¥bin¥mpscctl -a scFacilityLevelChk1.swt  
(Systemwalker インストールディレクトリ)  
¥mpwalker.dm¥mpsc¥bin¥mpscctl -a scFacilityLevelChk2.swt
```

–UNIX の場合

```
/opt/FJSVssc/bin/mpscctl -a scFacilityLevelChk1.swt  
/opt/FJSVssc/bin/mpscctl -a scFacilityLevelChk2.swt
```

–Systemwalker Centric ManagerV13. 4. 0 以降で、監視ポリシーが通常
モードの場合

スクリプトを登録する必要はありません。

3) 登録したスクリプトを対象ノードへポリシー配付します。

– Systemwalker Centric ManagerV13. 2. 0 以前の場合、または、
Systemwalker Centric ManagerV13. 3. 0 以降で監視ポリシーが互換
モードの場合

a) ポリシー設定します。

- ・ [Systemwalker コンソール]で対象ノードを選択し、[Systemwalker コンソール]の[ポリシー]メニューから[ポリシーの定義]–[スクリプト] (または[インテリジェントサービス])–[ノード]を選択します。
- ・ [スクリプト動作設定]ダイアログが出力されたら[OK]をクリックします。

b) ポリシー配付します。

- ・ [Systemwalker コンソール]の[ポリシー]メニューから[ポリシー配付]を選択します。
- ・ [ポリシーの配付]ダイアログで「すぐに適用する」にチェックを入れてから、[OK]をクリックします。

- Systemwalker Centric ManagerV13.3.0以降で、監視ポリシーが通常モードの場合

- a) ポリシー設定します。
- ・ [Systemwalker コンソール]の[ポリシー]メニューから[監視]-[監視ポリシー]を選択します。
→[監視ポリシー[管理]]画面が表示されます。
 - ・ [オプション]メニューの[カスタムモード表示]を選択したあと、[設定対象]-[スクリプト]-[動作設定]を選択し、[操作]-[新規作成]メニューまたは[操作]-[更新]メニューを選択します。
 - ・ [ポリシー名]、[コメント名]を入力し、[OK]ボタンをクリックします。
→[スクリプト(動作設定)]画面が表示されます。
 - ・ [スクリプト(動作設定)]画面で[追加]をクリックします。
→[スクリプト追加]画面が表示されます。
 - ・ スクリプト(scFacilityLevelChk1.swt、scFacilityLevelChk2.swt)を選択して、[OK]をクリックします。
 - ・ [スクリプト(動作設定)]画面で[OK]をクリックします。
- b) ポリシー配付します。
- ・ [ポリシー]メニューの[監視]-[監視ポリシー]を選択します。
→[監視ポリシー[管理]]ダイアログボックスが表示されます。
 - ・ [監視ポリシー [管理]]ダイアログボックスの[設定対象]-[ポリシーグループ]から対象となるポリシーグループ名を選択します。
 - ・ [操作]メニューの[配付]を選択します。

なお、ポリシー設定とポリシー配付の詳細は、以下のマニュアルを参照してください。

- Systemwalker Centric ManagerV13.2.0以前の場合
Systemwalker Centric Manager スクリプトガイド
第4章 導入と削除
4.7 ポリシーの設定
4.8 ポリシー配付

- Systemwalker Centric ManagerV13.3.0以降の場合
Systemwalker Centric Manager API・スクリプトガイド
第8章 スクリプトの導入と削除
8.7 ポリシーの設定
8.8 ポリシー配付

(6) SNMPトラップでVMwareのイベントを監視する場合

SNMPトラップを受信したときに通知するイベントの内容に、監視対象固有のMIB情報を表示するために、MIBの拡張を行う必要があります。

MIBを拡張するためには、以下を実施する必要があります。

1. 拡張MIBファイルを手にする
監視対象固有のMIB情報(拡張MIBファイル)を手に入れます。
2. MIBを拡張する
入手した拡張MIBファイルを元に、MIB拡張操作を行います。

手順は以下のとおりです。

拡張 MIB ファイルを入手する

以下の方法で、拡張 MIB ファイルを入手してください。

VMware の「サポートおよびダウンロード」から、拡張 MIB ファイルを入手します。

<http://www.vmware.com/jp/support/>

MIB 拡張の手順については、下記マニュアルを参照してください。

- Systemwalker Centric Manager V13.2.0 以前の場合
Systemwalker Centric Manager 使用手引書監視機能編
第 6 章 ネットワーク/システムを監視する
6.2.3.2 ベンダ固有の MIB を追加する
- Systemwalker Centric Manager V13.3.0 以降の場合
 - 通常モードで運用している場合
Systemwalker Centric Manager 使用手引書監視機能編
第 5 章 [監視ポリシー]以外のポリシーの設定
5.3 ベンダ固有の MIB を追加する
 - 互換モードで運用している場合
Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編(互換用)
第 11 章 ネットワーク/システムを監視する
11.2.3.2 ベンダ固有の MIB を追加する

1 1. Systemwalker テンプレートの入れ替え方法 (GUI)

監視対象製品がバージョン・レベルアップした場合や Systemwalker テンプレートの障害修正のため、Systemwalker テンプレートを再適用(入れ替え)する場合は、以下の作業を実施してください。

1 1. 1 入れ替え前の作業

プロセス監視テンプレートを使用してアプリケーション監視の設定を行っている場合は、以下の手順で設定を戻してください。

この操作により、アプリケーション監視のポリシーの設定を無効にします。

【Systemwalker Centric Manager V13.1.0 ~ V13.2.0 の場合】

【Systemwalker Centric Manager V13.3.0 以降の互換モード場合】

- (1) [ポリシーの簡易設定]画面を起動し、「アプリケーションの稼動監視の設定」の [監視対象製品]をクリックします。
- (2) [監視対象製品]画面で選択している製品のチェックを外し、[OK]をクリックします。
- (3) ポリシーを配付します。
- (4) 上記をすべての監視対象ノードに対して実施してください。

【Systemwalker Centric Manager V13.3.0 以降の標準モード場合】

- (1) 使用しているポリシーグループの[監視ポリシー[ポリシーグループの登録]]画面を表示します。
- (2) 「設定」タブの「アプリケーション監視」の「監視条件(I)」で「監視しない」を選択し[OK]をクリックします。
- (3) [監視ポリシー[設定内容の確認]]画面で[はい]をクリックします。
- (4) 上記(2)で設定を変更したポリシーグループのポリシーを配付します。
- (5) すべてのポリシーグループに対して上記(1)～(4)の操作を実施してください。

1 1. 2 Systemwalker テンプレートの入れ替え

5. Systemwalker テンプレートのインストール方法 にしたがって、Systemwalker テンプレートをインストールしてください。

1 1. 3 入れ替え後の作業

Systemwalker テンプレートの入れ替え後、以下の操作を実施してください。
この操作により、アプリケーション監視のポリシーの設定を有効にし、イベント監視のポリシーを再配付します。

【Systemwalker Centric Manager V13.1.0 ～ V13.2.0 の場合】

【Systemwalker Centric Manager V13.3.0 以降の互換モード場合】

- (1) [ポリシーの簡易設定]画面を起動し、「アプリケーションの稼動監視の設定」の[監視対象製品]をクリックします。
- (2) [監視対象製品]画面で、監視対象とする製品を選択し[OK]をクリックします。
- (3) [ポリシーの簡易設定]画面を起動し、「イベント監視の条件定義の設定」の[監視対象製品]をクリックします。
- (4) [監視対象製品]画面で、[OK]をクリックします。
- (5) ポリシーを配付します。
- (6) 上記をすべての監視対象ノードに対して実施してください。

注) プロセス監視テンプレートを使用していない場合は、(1)(2)の操作は不要です。
イベント監視テンプレートを使用していない場合は、(3)の操作は不要です。

【Systemwalker Centric Manager V13.3.0 以降の標準モード場合】

- (1) 1 1. 1 入れ替え前の作業の(2)で変更した「監視条件(I)」を変更前のポリシー名に戻します。
- (2) [監視ポリシー[設定内容の確認]]画面で[はい]をクリックします。
- (3) [アプリケーション監視]の[監視条件]の[ポリシー]を更新し、監視プロセスを見直してください。[OK]をクリックします。
- (4) 上記(3)を[アプリケーション監視]のすべての[ポリシー]に対して行います。
- (5) [イベント監視]の[監視条件]の[ポリシー]を更新し、[イベント監視[監視条件]]画面で[OK]をクリックします。
- (6) 設定を変更したポリシーを使用しているポリシーグループのポリシーを配信します。

注) プロセス監視テンプレートを使用していない場合は、(1)～(4)の操作は不要です。
イベント監視テンプレートを使用していない場合は、(5)の操作は不要です。

1 2. Systemwalker テンプレートの入れ替え方法 (コマンド)

以下の手順で元の状態に戻した後、Systemwalker テンプレートを再インストール後、再度コマンドで適用を行ってください。

また、テンプレート適用後に、何らかの理由により元に戻す場合は、以下の手順を行なってください。ただし、テンプレート適用後に行なった設定を含め、すべて元の状態に戻りますので、ご注意ください。

1 2. 1 Systemwalker Centric Manager 運用管理サーバのイベント監視の設定を戻す方法

- (1) 運用管理サーバにて、本テンプレートのインストールディレクトリに移動し、以下のコマンドを実行します。

※Administrator ユーザまたは root で実行してください。

—運用管理サーバが Windows の場合

```
cd <Systemwalker インストールディレクトリ>%mpwalker%epolicy  
restore.bat
```

—運用管理サーバが Solaris/Linux の場合

```
cd /var/opt/FJSVswtd/epolicy  
./restore.sh
```

1 2. 2 Systemwalker Centric Manager 部門管理サーバ・業務サーバのイベント監視の設定を戻す方法

- (1) 運用管理サーバにて、本テンプレートのインストールディレクトリに移動し、以下のコマンドを実行します。

※Administrator ユーザまたは root で実行してください。

－運用管理サーバが Windows の場合

```
cd <Systemwalker インストールディレクトリ>%mpwalker%epolicy
restoreagt.bat {-f FolderName |-n ノードの表示名}
```

－運用管理サーバが Solaris/Linux の場合

```
cd /var/opt/FJSVswtd/epolicy
./restoreagt.sh {-f FolderName |-n ノードの表示名}
```

[パラメタの説明]

-f FolderName : 戻す対象がフォルダの場合は「-f」と「フォルダの表示名」を指定します。

-n ノードの表示名 : 戻す対象がノード単体の場合は「-n」と「ノードの表示名」を指定します。

※Systemwalker コンソールに表示されるフォルダの表示名、ノードの表示名を指定します。(host 名ではありませんのでご注意ください。)

- (2) Systemwalker コンソールから、部門管理サーバ、業務サーバへポリシーの配付を行います。

注意)

部門管理サーバ・業務サーバの初期導入時に、バックアップを作成しないため、上記の方法で元に戻すことはできません。この場合、Systemwalker コンソールの「ポリシー」－「ポリシーの設定」－「イベント」－「ノード」－「イベント監視の条件定義」で追加した定義を1つずつ削除後、ポリシー配信してください。

1 2. 3 プロセス監視の設定を戻す方法

- (1) 運用管理サーバまたは運用管理クライアントの[Systemwalker コンソール]の[アプリケーション一覧]にて、登録されている監視対象アプリケーションを削除してください。

- (2) ポリシーを配付します。

1 3. Systemwalker テンプレートの削除方法

[留意事項]

- ・ソフトウェア辞書テンプレートを使用して、監視対象ノードのソフトウェア情報を管理している場合は、Systemwalker テンプレートを削除しないでください。
- ・Systemwalker テンプレートは、Systemwalker Centric Manager に同梱されている Systemwalker テンプレート(以降、標準の Systemwalker テンプレートとする)に対して上書きインストールしています。
そのため、Systemwalker テンプレートを削除しても、標準の Systemwalker テンプレート (V15.0.0 以降の資産管理機能で使用するソフトウェア辞書情報を除く) には戻りません。
標準の Systemwalker テンプレートに戻すためには、Systemwalker Centric Manager を再インストールする必要があります。
- ・Systemwalker Centric Manager V13.1.0 以降の場合、Systemwalker テンプレートを削除しても、以下に示す機能は削除前のままになります。

－Systemwalker Centric Manager V13.3.0 以降で、監視ポリシーが通常モードの場合

- ・Systemwalker コンソール[編集]－[ポリシー]－[監視]－[監視ポリシー]－[監視ポリシー[管理]]画面での、イベント監視・アプリケーション監視の[監視条件]画面から使用できるイベント監視テンプレート、プロセス監視テンプレート
- ・Systemwalker コンソールの[監視イベント詳細]画面で表示される[メッセージ説明]の表示内容

－「Systemwalker Centric Manager V13.1.0～V13.2.0 を使用している場合」、または、「Systemwalker Centric Manager V13.3.0 以降で、監視ポリシーが互換モードの場合」

- ・Systemwalker コンソール[編集]－[ポリシー]－[ポリシーの定義]－[ポリシーの簡易設定]－[ポリシーの簡易設定]画面での、[監視対象製品]画面から使用できるイベント監視テンプレート、プロセス監視テンプレート
- ・Systemwalker コンソールの[監視イベント詳細]画面で表示される[メッセージ説明]の表示内容

(1) イベント監視テンプレート、プロセス監視テンプレートの設定を戻します。

GUI で適用している場合は、製品選択時のチェックをすべて外して、ポリシーを配付してください。

コマンドを使用して適用を行っている場合は、「1 2. Systemwalker テンプレートの入れ替え方法 (コマンド)」にしたがって、設定を元に戻してください。

(2) 以下にしたがって Systemwalker テンプレートを削除してください。

－運用管理サーバが Windows 版の場合

〈Systemwalker Centric Manager V13.0.0 以前の場合〉

Systemwalker インストールディレクトリ¥mpwalker.dm¥template ディレクトリを削除してください。

<Systemwalker Centric Manager V13.1.0 以降の場合>

- ①コマンドプロンプトより、アンインストールスクリプトが格納されているフォルダへ移動します。

```
cd <Systemwalker インストールディレクトリ>%mpwalker.dm  
%template%uninstall
```

- ②アンインストールスクリプトを実行します。

```
uninstall.bat
```

ー運用管理サーバが Solaris/Linux 版の場合

<Systemwalker Centric Manager V13.0.0 以前の場合>

/opt/systemwalker/template ディレクトリを削除してください。

<Systemwalker Centric Manager V13.1.0 以降の場合>

- ①アンインストールスクリプトが格納されているフォルダへ移動します。

```
cd /opt/systemwalker/template/uninstall
```

- ②アンインストールスクリプトを実行します。

運用管理サーバが EUC 環境の場合、uninstall_euc.sh を実行します。

```
./uninstall_euc.sh
```

運用管理サーバが SJIS 環境の場合、uninstall_sjis.sh を実行します。

```
./uninstall_sjis.sh
```

運用管理サーバが UTF8 環境の場合、uninstall_utf8.sh を実行します。

```
./uninstall_utf8.sh
```

1 4. エラーメッセージ

1 4. 1 インストール／アンインストール時のエラーメッセージ

- ・ ERROR: 1: Systemwalker Centric Manager のインストールパス名の取得に失敗したため処理を終了します。

[対処方法]

Systemwalker Centric Manager 運用管理サーバがインストールされていることを確認してください。

- ・ ERROR: 2: Systemwalker テンプレートのインストールフォルダ (Systemwalker Centric Manager インストールディレクトリ¥mpwalker. dm¥template) の作成に失敗したため処理を終了します。

[対処方法]

Systemwalker テンプレートのインストールスクリプトは、Administrator ユーザまたは、root で実行してください。

- ・ ERROR: 3: Systemwalker テンプレートのインストールデータのコピーに失敗したため処理を終了します。

[対処方法]

- ・ Systemwalker テンプレートのインストールスクリプトは、Administrator ユーザ または、root で実行してください。
- ・ コマンドプロンプトにて、Systemwalker Template を解凍したフォルダへ移動し、Systemwalker テンプレートのインストールスクリプトを実行してください。

- ・ ERROR: 4: 監視イベント種別定義ファイル(オプションに指定したファイル名)が見つかりません。

[対処方法]

- ・ オプションに指定した監視イベント種別定義ファイル名に誤りがあります。
オプションに指定する監視イベント種別定義ファイル名は、CATEGORY.txt_sjis または CATEGORY.txt_euc または CATEGORY.txt_utf8 のいずれかを指定してください。
- ・ Systemwalker テンプレートを解凍したフォルダ配下にオプションに指定した監視イベント種別定義ファイル (CATEGORY.txt_sjis または CATEGORY.txt_euc または CATEGORY.txt_utf8) があることを確認してください。

- ・ ERROR: 5: 監視イベント種別の追加が失敗したため処理を終了します。
ERRORCODE=\$ERRORCODE

[対処方法]

- ・ ERRORCODE=1 の場合
監視イベント種別が上限数である 64 個に達したため、Systemwalker テンプレートで使用する監視イベント種別を登録できませんでした。

既に登録されている監視イベント種別を削除してから、Systemwalker テンプレートのインストールスクリプトを実行してください。

※監視イベント種別は、現在使用されていないものを確認してから削除してください。

- ・ ERRORCODE=4 の場合
運用管理サーバの[サーバ環境設定]画面が起動されているため、Systemwalker テンプレートで使用する監視イベント種別を登録できませんでした。
[サーバ環境設定]画面を閉じてから、Systemwalker テンプレートのインストールスクリプトを実行してください。
- ・ 上記のいずれにも該当しない場合は、Systemwalker Centric Manager の保守情報収集ツールで「イベント監視」をチェックして資料を採取し、技術員に連絡してください。

- ・ ERROR: 6: リポジトリへの反映が失敗したため処理を終了します。

[対処方法]

- ・ Systemwalker テンプレートのインストールスクリプトの実行は、Systemwalker Centric Manager のサービスが起動されている必要があります。
Systemwalker Centric Manager のサービスが起動されていることを確認してください。
- ・ Systemwalker テンプレートのインストールスクリプトは、運用管理サーバで実行してください。
- ・ Systemwalker テンプレートのインストールスクリプトの実行は、Systemwalker Centric Manager のデータベースを構築したユーザで実施する必要があります。
Systemwalker Centric Manager のデータベースを構築したユーザを確認の上、再度 Systemwalker テンプレートのインストールスクリプトを実行してください。
- ・ 上記のいずれにも該当しない場合は、Systemwalker Centric Manager の保守情報収集ツールで「フレームワーク」をチェックして資料を採取し、技術員に連絡してください。

- ・ ERROR: 7: 監視イベント種別の反映が失敗したため処理を終了します。

[対処方法]

Systemwalker Centric Manager のサービス(デーモン)を再起動してください。(監視イベント種別の設定を反映します。)

※Systemwalker テンプレートのインストールデータのコピーは、正常終了しています。

Systemwalker テンプレートのインストールスクリプトを再度実行する必要はありません。

- ・ ERROR: 8: ディレクトリ(<Systemwalker インストールディレクトリ>¥template ¥msg)の移動に失敗したため処理を終了します。
[対処方法]
 - ・ Systemwalker テンプレートのインストールスクリプトは、Administrator ユーザ または、root で実行してください。
 - ・ コマンドプロンプトにて、Systemwalker Template を解凍したフォルダへ移動し、Systemwalker テンプレートのインストールスクリプトを実行してください。

- ・ ERROR: 9: ディレクトリ(削除対象のフォルダ名)の削除に失敗したため処理を終了します。
[対処方法]
 - ・ Systemwalker テンプレートのインストールスクリプトは、Administrator ユーザ または、root で実行してください。
 - ・ コマンドプロンプトにて、Systemwalker Template を解凍したフォルダへ移動し、Systemwalker テンプレートのインストールスクリプトを実行してください。

- ・ ERROR: 10: メッセージファイル(メッセージファイル名)の展開に失敗しました。
[対処方法]
 - ・ Systemwalker テンプレートのインストールスクリプトは、Administrator ユーザ または、root で実行してください。
 - ・ Systemwalker Centric Manager をインストールしているディスクの空き容量が不足していないか確認をしてください。十分なディスク容量を確保し、再度 Systemwalker テンプレートのインストールスクリプトを実行してください。

- ・ ERROR: 11: 自己解凍ファイル(\$FileName)の削除に失敗したため処理を終了します。
[対処方法]
 - ・ Systemwalker テンプレートのインストールスクリプトは、Administrator ユーザ または、root で実行してください。
 - ・ コマンドプロンプトにて、Systemwalker Template を解凍したフォルダへ移動し、Systemwalker テンプレートのインストールスクリプトを実行してください。

- ・ ERROR: 12: ディレクトリ(\$WorkPath)の移動に失敗したため処理を終了します。
[対処方法]
 - ・ Systemwalker テンプレートのインストールスクリプトは、Administrator ユーザ または、root で実行してください。
 - ・ コマンドプロンプトにて、Systemwalker Template を解凍したフォルダへ移動し、Systemwalker テンプレートのインストールスクリプトを実行してください。

1 4. 2 設定時、運用中のエラーメッセージ

- ・バックアップフォルダ (<Systemwalker インストールディレクトリ>%mpwalker %epolicy) の作成に失敗しました。処理を終了します。
[対処方法]
(<Systemwalker インストールディレクトリ>%mpwalker %epolicy ディレクトリを作成後、再度 Systemwalker テンプレートをインストールしてください。
- ・以下の監視メッセージが出力される
MpScsv: 警告: 1063: 定義したプロシージャ名が登録されていないか存在しない
コマンド (UsrFacilityLevelChk2) が呼び出されました。
MpScsv: 警告: 1053: メッセージ監視アクションスクリプトでエラーが発生
しました。(プロシージャ名=UsrFacilityLevelChk2, 詳細コード=invalid
command name "UsrFacilityLevelChk2" while executing)
[対処方法]
Systemwalker テンプレートの [_script] フォルダに格納されている以
下の Systemwalker スクリプトを運用管理サーバ、および Systemwalker
テンプレートを適用しているノードに対して適用してください。
適用方法は「10. 3 (5) スクリプトの登録と適用」を参照してくだ
さい。

1 4. 3 reg_userdef_template コマンド実行時のエラーメッセージ

- ・ERROR: 1: Systemwalker Centric Manager のインストールパス名の取得に失敗し
たため処理を終了します。
[対処方法]
 - ・ Systemwalker Centric Manager 運用管理サーバがインストールされ
ていることを確認してください。
- ・ERROR: 2: Systemwalker Centric Manager の Virsion の取得に失敗したため処理を
終了します。
[対処方法]
 - ・ Systemwalker Centric Manager V13.1.0 以降がインストールされて
いることを確認してください。
- ・ERROR: 3: Systemwalker Centric Manager の Level の取得に失敗したため処理を
終了します。
[対処方法]
 - ・ Systemwalker Centric Manager V13.1.0 以降がインストールされて
いることを確認してください。
- ・ERROR: 4: ご使用のバージョンでは、当コマンドは使用できません。
[対処方法]
 - ・ 対象バージョン・レベルがインストールされていることを確認して
ください。

- ・ ERROR: 7: 指定されたユーザ定義番号に誤りがあります。

[対処方法]

- ・ オプションに指定したユーザ定義番号に誤りがあります。
ユーザ定義番号は 01~20 までの数値 2 桁で設定してください。

- ・ ERROR: 9: ディレクトリ移動に失敗しました。
- ・ ERROR: 10: ディレクトリ移動に失敗しました。
- ・ ERROR: 21: ディレクトリ移動に失敗しました。
- ・ ERROR: 24: ディレクトリ移動に失敗しました。
- ・ ERROR: 27: ディレクトリ移動に失敗しました。
- ・ ERROR: 31: ディレクトリ移動に失敗しました。
- ・ ERROR: 37: ディレクトリ移動に失敗しました。
- ・ ERROR: 40: ディレクトリ移動に失敗しました。

[対処方法]

- ・ Administrators グループのユーザ または、root でコマンドを実行してください。

- ・ ERROR: 11: 指定されたユーザ定義番号には、既に定義が登録がされています。

[対処方法]

- ・ 異なるユーザ定義番号を指定する、もしくは既に登録されている定義を削除してから登録を行ってください。
※削除した定義は復元することは出来ません。
必要に応じて取り出しを先に行ってください。

- ・ ERROR: 12: 指定されたユーザ定義番号には、定義が登録がされていません。
- ・ ERROR: 13: 指定されたユーザ定義番号には、定義が登録がされていません。

[対処方法]

- ・ オプションに指定したユーザ定義番号には、定義が登録されていないため、取り出し・削除は出来ません。

- ・ ERROR: 14: ディレクトリが指定されています。
- ・ ERROR: 32: ディレクトリが指定されています。

[対処方法]

- ・ ファイル名までを指定してください。

- ・ ERROR: 15: 指定された定義ファイルが読み込めません。
- ・ ERROR: 18: 指定された定義ファイルが読み込めません。

[対処方法]

- ・ オプションに指定した定義ファイルパスが正しいことを確認してください。

- ・ ERROR:16: 指定された定義ファイルに誤りがあります。
- ・ ERROR:17: 指定された定義ファイルに誤りがあります。

[対処方法]

- ・ オプションに指定した定義ファイルの内容が正しいことを確認してください。
- ※ 「9.1.1 適用手順 (2)」を確認してください。

- ・ ERROR:19: 指定された定義ファイルに誤りがあります。
- ・ ERROR:20: 指定された定義ファイルに誤りがあります。

[対処方法]

- ・ オンラインマニュアル「Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル」の「アプリケーション情報ファイル」を参照しながら定義ファイルが正しいことを確認してください。

- ・ ERROR:22: 定義ファイルの登録に失敗しました。
- ・ ERROR:23: 定義ファイルの登録に失敗しました。
- ・ ERROR:25: 定義ファイルの登録に失敗しました。
- ・ ERROR:26: 定義ファイルの登録に失敗しました。

[対処方法]

- ・ Administrators グループのユーザ または、root でコマンドを実行してください。

- ・ ERROR:33: ファイル名の先頭文字が、半角英数字以外が指定されています。

[対処方法]

- ・ ファイル名は先頭文字が英数字となるように指定してください。

- ・ ERROR:34: 指定されたファイルパスが存在しません。

[対処方法]

- ・ オプションに指定した定義ファイルパスが正しいことを確認してください。

- ・ ERROR:35: ファイルの取り出しに失敗しました。
- ・ ERROR:36: ファイルの取り出しに失敗しました。

[対処方法]

- ・ Administrators グループのユーザ または、root でコマンドを実行してください。

- ・ ERROR:38: 定義ファイルの削除に失敗しました。
- ・ ERROR:39: 定義ファイルの削除に失敗しました。

[対処方法]

- ・ Administrators グループのユーザ または、root でコマンドを実行してください。

1 5. Systemwalker Centric Manager の障害の回避方法について

1 5. 1 PG58027 の回避方法

本回避方法は Systemwalker Centric Manager V13.1.0/V13.2.0 を使用し、かつ、コマンドによる適用を行う場合に必要な処理です。GUI による適用を行う場合には必要ありません。

Systemwalker テンプレートの適用時に、Windows 2003 Server のノードを指定してポリシーの登録 (poin1 コマンドの実行) をすると異常終了することがあります。

(ポリシーの登録ができない場合があります)

ポリシー登録するノード OS 名が下記<対象 OS 名>の何れかである場合、下記<OS 名変更手順>で、OS 名を“Windows Server 2003”に変更することにより、本障害の発生を未然に防ぐことが可能です。

<対象 OS 名>

- ・ Windows Server 2003 Standard Edition
- ・ Windows Server 2003 Enterprise Edition
- ・ Windows Server 2003 Datacenter Edition

<OS 名変更手順>

(1) 変更手順

以下のどちらかの方法で、対象ノードの OS 名を変更します。

- ・ Systemwalker コンソールのノードプロパティから OS 名を“Windows Server 2003”に変更する。
- ・ 「ノード構成情報 CSV ファイル」の OS 名に“Windows Server 2003”を入力してノード構成情報を登録し直す。

(2) 該当処理を実施

エラーになったポリシーの登録を再度行ってください。

(3) 環境の復元

(2) で該当処理を実施した後、手順 1. で変更した環境を元に戻してください。

注意：インベントリを収集している場合は、収集のタイミングにより設定が変更前に戻ることがありますので、再度変更してください。